

## Case 26 – 2018

**A 48-Year-Old Man with Fever, Chills, Myalgias, and Rash**  
(N Engl J Med 2018;379:775-85.)

【患者】 48 歳男性

【主訴】 発熱、悪寒、筋肉痛、下痢、びまん性の発疹

【現病歴】 (一部改変/省略あり)

入院 3 週間前まで特に健康状態に変化は見られなかった 48 歳の男性。ある春の終わり頃に発熱と悪寒、頭痛そしてびまん性の筋肉痛を感じるようになった。本人は当初インフルエンザだと考えていたが、5 日後には体幹と下肢、足や手に発疹を認めるようになった。その翌日に食思不振と数回の水溶性の下痢を伴う軽度でびまん性の腹部不快感が発生した。その後 5 日間に渡り体勢変化に伴うめまいと失神があった。本院 (MGH) 入院 14 日前に当たる日に初診で他院を訪れたが、その本人は疲労感とびまん性の紅斑を訴えており、BT 37.7°C であった。好酸球数は 600/mm<sup>3</sup>

(reference range, 0-200) で肝酵素上昇も見られたという。胸部単純 CT では軽度でびまん性のリンパ節腫大が見られ、最大で直径 9mm (縦隔)、15mm (肝門部) に及ぶ大きさであった。その後、何らかの抗菌薬を投与され 5 日後に Cetirizine (第 2 世代 H1-blocker) と Hydroxyzine (第 1 世代 H1-blocker で抗不安作用あり) の頓用と共に近医フォローの計画で退院となったが、本院入院 1 日前に軽度の顔面および手の浮腫が出現し、手のひらには水疱が発生した。翌日近医受診し、継続していた発熱と悪寒、水疱を伴う発疹や食思不振、体勢を変えることによるふらつきを訴えていたため、同僚の膠原病内科医師のアドバイスのもと、経口 Prednisone を 1 回投与され、MGH の ER へと転院搬送された (到着時現症は以下参照)。ER での問診により、下肢の紅斑が (過去に) あった部分の掻痒感や、継続する疲労感、頸椎と腰の慢性的な痛み、意図的な体重減少 (15 週で 11kg 減、来院時 79kg で BMI 28.1) があることが判明した。頸椎と腰の痛みに対して市販の痛み止めを 5 週間ほど前から服用していたが、今回の一連の体調不良が始まってからは飲んでいないとのこと。薬の詳細や効き目に関しては詳細不明。その後一般病棟に精査加療目的で入院したが、3 日目に BT 38.4°C まで上昇、HR も 110/min まで上昇した。この際の詳細な Labs は Table 1 参照。

【アレルギー】 特になし

【内服薬】 Aspirin, Mirtazapine (NaSSA, antidepressant), Rosuvastatin, Omeprazole, Cetirizine and Hydroxyzine

【既往歴】 脂質異常症、うつ病、GERD

【社会歴】 タバコを 2 PPD、マリファナを 1 週間に 1 回を 30 年間、飲酒なし、不法ドラッグの使用はなし。

仕事は肉体労働およびドライバー。独身。動物や昆虫への明らかな暴露はなく、New England の外に旅行したことはない。複数のセクシャルパートナーがいたが、常に Protection を欠かさなかった。強いて言うと現在のセクシャルパートナーの孫がびまん性斑点状丘疹と紅斑を伴う発熱症状を呈していた。

【家族歴】 母親が肺がん、父親が DM, CAD で、自己免疫疾患や皮膚科的疾患の家族歴はない。

【MGH の ER 到着時現症・身体所見】

[ Vital ] BP 132/57 mmHg, PR 89/min, BT 37.1°C, SpO<sub>2</sub> 98% (RA)

[ HEENT ] 眼瞼浮腫、側頭部と額に剥離状痂皮を認める。

[ Abd ] 上腹部に軽度圧痛、肝脾腫あり。

[ Ext/Skin ] 体幹部に分岐状の斑点状丘疹。両腕、下肢、足の背側に剥離状痂皮を伴う、薄くてかすかに青紫色の小斑点。弛緩性の小水疱 (やや出血あり) を指の数本と手掌に認めるも、粘膜病変や爪の病変はなし (以上 Fig. 1 参照)。

[ Lymph nodes ] 軽度圧痛あり。両側の頸部、下顎、腋窩 (1cm 程)、鼠径部 (2cm 程) に可動性のあるリンパ節あり。

[ Labs/Tests(入院当日) ] 便潜血陰性。Thyrotropin, CK, Troponin T, Amylase, Lipase, Vit D 値および血漿浸透圧, 好塩基球数, PT, APTT, 尿検査は正常であった。その他の検査結果については、Table 1 を参照。

[CECT(入院後 2 日目)]小葉中心性肺気腫, 気管支壁の肥厚の所見あり。上葉の肺野に散在性の結節(直径 2-3mm)あり。

胸部付近に複数の腫大したリンパ節あり。嚢胞を伴った脾腫大 (長さ 15.2cm; 通常 ≤12.0cm) を認めた。



**Figure 1. Clinical Photographs of the Rash.**

The patient presented with a polymorphous eruption, including violaceous plaques with exfoliative scale on the dorsal feet (Panel A), flaccid bullae on the palms (Panel B), and a blanching, maculopapular rash on the trunk (Panel C).

Variable	Reference Range, Adults, Office of Primary Care Physician	Morning of Admission, Office of Primary Care Physician	Reference Range, Adults, This Hospital <sup>†</sup>	On Admission, This Hospital	Day 3, This Hospital
<b>Blood</b>					
Hemoglobin (g/dl)	13.5–17.5	12.2	13.5–17.5	10.4	10.0
Hematocrit (%)	41.0–53.0	35.2	41.0–53.0	30.2	29.9
Red-cell count (per mm <sup>3</sup> )	4,200,000–5,400,000	3,910,000	4,500,000–5,900,000	3,360,000	3,100,000
White-cell count (per mm <sup>3</sup> )	4500–10,500	18,300	4500–11,000	11,000	6500
Differential count (%)					
Neutrophils	45.0–75.0	24.0	40–70	44	45
Lymphocytes	20.0–44.0	40.3	22–44	24	29
Atypical lymphocytes	0	4	0	4	13
Monocytes	2.0–12.0	10.6	4–11	2	5
Eosinophils	0–4	24	0–8	23	8
Bands			0–10	3	0
Platelet count (per mm <sup>3</sup> )	130,000–400,000	90,000	150,000–400,000	111,000	107,000
Mean platelet volume (fl)	7.0–11.0	12.7	8.4–12.0		
Sodium (mmol/liter)	135–145	133	135–145	129	135
Potassium (mmol/liter)	3.5–5.5	3.2	3.4–4.8	4.0	3.5
Chloride (mmol/liter)	96–106	96	100–108	95	101
Carbon dioxide (mmol/liter)	21–32	26	23–32	22	23.7
Urea nitrogen (mg/dl)	6–23	15	8–25	17	17
Creatinine (mg/dl)	0.5–1.4	1.2	0.60–1.50	0.99	1.04
Glucose (mg/dl)	65–99	92	70–110	158	104
Calcium (mg/dl)	8.2–10.1	8.1	8.5–10.5	8.0	7.8
Total protein (g/dl)	6.4–8.2	8.3	6.0–8.3	7.5	5.8
Albumin (g/dl)	3.4–5.0	2.3	3.3–5.0	2.6	2.2
Globulin (g/dl)			2.3–4.1	4.9	3.8
Total bilirubin (mg/dl)	0.0–1.3	0.5	0.0–1.0	0.5	0.5
Aspartate aminotransferase (U/liter)	10–40	95	10–40	99	188
Alanine aminotransferase (U/liter)	20–60	153	10.55	116	160
Alkaline phosphatase (U/liter)	30–150	811	45–115	641	498
Erythrocyte sedimentation rate (mm/hr)	<10.0	74	0–15		
C-reactive protein (mg/liter)	0.10–15.00	41.33	<8		
Lactate dehydrogenase (U/liter)	85–227	725	110–210		490
γ-Glutamyltransferase (U/liter)			8–61	286	

ある診断的検査が、行われた。

- Problem list を挙げてください。
- 鑑別診断および必要な検査を挙げてください。